



平成19年2月15日

2〜3面	公民館研究集会
4面	ふるさと味まつり
5面	女性フォーラム
6面	みんなで仲良く
7面	スポーツ・情報
8面	ひと・スポーツ・
	こどもの詩・俳句・短歌
	声・べんべん草



## まつかわ百景 ⑨ 「節分祭」

上大島地区公民館の恒例行事節分祭。子ども達が1年間いい子でいるようにオニと約束します。(清流苑にて)

福祉を考える集会も25回になります。今回のテーマは、「みんなの心にボランティア」です。松川町のボランティア活動は、福祉の集会や、住民のいろいろな活動の中から多くのグループが誕生し、様々な活動が行なわれて来ました。

現在、少子・高齢化や核家族化の進行、人間関係の希薄化、福祉に関する制度の変化、価値観や生活様式の多様化などを背景に、ボランティア活動はよりよい社会を作る為に欠かせないものとなっております。私たちの暮らしは、行政サービスと共に、多くのボランティアの「支え合う温かい心」によって支えられています。

また、今年「団塊の世代」の皆さんが、60歳で大量に定年退職し始める年でもあり、ボランティアへの期待と関心も高まっています。

松川町のボランティアも高齢化、後継者不足などの問題もでてきて、もう一度ボラン

## 主張 福祉を考える集会に寄せて (雑感)

ボランティアの原点や課題をあらためて見つめ直し、今後の方向性や可能性を考えていかなければなりません。

ボランティアは誰にでも気軽に行うことができます。趣味や特技を生かして、デイサービスへ将棋を指しにきてくれる方、隣近所の助け合い、歌や踊り、楽器の演奏をしてくれる方、地域を良くする活動など、様々なボランティアがあります。最近では企業がボランティア活動に取組んでいるところもあり、企業による社会貢献はこれから大切なことだと思います。何か、ボランティアをしてみたいと思っている人、地域ボランティアセンターへ相談して下さい。

ボランティアでいろいろな人と出会って、仲間作りができること、そして、楽しくボランティアができる松川町にして行けたらと思います。

福祉を考える会 運営委員長  
水野一昭

平成18年度

第44回 公民館研究集会

2月4日、中央公民館・町民体育館を会場に第44回公民館研究集会が開催された。今年、「子どもを育む、地域活動を考える」次世代を担う子どもの現状と、明るい未来を模索するをテーマに開催。各地区公民館関係者をはじめ、老人クラブ・育成会・教育関係者等、様々な立場の方が集った。

基調講演

分散会への話題提供の役割も果たす今年の基調講演では松本市中山公民館館長の酒井宏和氏を講師に迎え、「生きる力を育む」という演題で講演会が行われた。



講師の酒井宏和氏

演題にも登場する「生きる力」とは、1996年7月の

中央教育審議会の答申によるもの。

- ①自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力
- ②自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性
- ③たくましく生きるための健康や体力

最近、子どもが犠牲となる犯罪や事故の報道が多くなされ、保護者の不安も高まっていることや、放課後の塾・習い事の増加もあり、大人の監視下でしか遊べない状況があるという。昔ならば遊びの中で形成されてきた「子どもの世界」がない状況である。子ども達の生きる力を育むためには「子どもの世界」の存在はとても重要だ。

「子ども達が自分でやること」を保障する施策が必要である。かわい子には旅をさせよ、とはうまく言ったもので、時には苦労もしつつ「自分たちのことは、自分たちで」行うこと、失敗も財産であり、そこから学ぶ機会が成長に繋がる。後半は「中山子ども公民館」



熱心に聞き入る参加者

の事例が紹介された。

事業を始めるにあたって、小学校へ協力を依頼して全児童への意識調査（好きなこと・したいこと）が行われた。「子どもだけですべてやりたい」「ぼく達の希望を聞いてほしい」

子ども達の本音を受け、できることから計画・実践が行われた。なるべく継続でき、努力・汗して結果の出る活動、集団で出来るものを取り上げた。また、やるからには「最後までやりぬく」決意を子ども達に確約してもらった。

公民館・大人たちは、見守りに徹した。口出し手出しをせず、否定・ダメも言わないようにした。但し危険や限界を見極めた指導はするようにした。結果・見栄えよりも過程・努力を尊重した。失敗も価値ある体験として、次のステップ

プへの見返しの際には貴重なデータとなった。

年間を通じては、米作りやそば様々な野菜の栽培を行ってきた。収穫物はキャンプ・料理の会などで味わい、老人施設などへも寄付。店をやってみたい子ども達で出店・出張販売を行い、子ども達の手で開設したJAの口座へ活動資金として貯金もできた。

中短期の活動としては、基地作りや、年6回ほどのキャンプ、花の植栽、新聞・便りの発行、ごみ拾い：子ども達のやりたいことをいろいろおこなった。

むろん、全てが順調に運ぶわけではない。講演中上演されたビデオの中でも、突風で倒された田のはぎを組みなおし、最初よりも丈夫な物を作り直す姿が見られた。

子ども達の自主性ある活動のために、行政・地域の支援・連携は欠かせない。中山公民館の事例では、子ども達を支える環境がうまく整備されているようだ。地域の在り方は、その地域ごとに特色がある。中山公民館の事例を参考に、子どもも大人も住みやすい松川町を、住民の手で作っていききたいものである。

# 分散会

各分散会では基調講演の感想を発表しながらテーマについて話し合いを行った。松本のような活動はいいと思うが、実際行うのは大変という感想が多く、事業への参加者の少なさ、子供が外で遊ばない(遊ぶ場所がない)責任問題がある為やらせない、大人がやりすぎてしまうなど問題点が多いのが現状である。

子供たちが望むことを把握し、まず出来ることから始め、大人はそれをバックアップする、家族との触れあいや地域のお年寄りや住民との関わりを深め、学校や公民館などと連携して事業を進めていくことが大切であり、まず親の考え方を変えなければ子供も変わらないという意見が出された。今後の子供たちの自主性を伸ばす為に参加者が真剣に考え、有意義な話し合いができた。

## 地区公民館討議

町内8つの地区公民館ごとに参加者がわかれ、討議を行った。最初に基調講演で学んだこと、その感想を出し合い、地区公民館それぞれの現状と課題について参加者が思っ

ていることを発表した。

上新井からは、体験学習を大切にしていきたい、学校と公民館との連携が大事。規制があり過ぎて子供の遊べる場所が少ない、等の意見が出された。一方、上大島では子供が参加出来る事業は段取りの多くを大人が



なごやかな雰囲気分散会は進む

してしまふ。個々の子供の主体性を伸ばすには親達大人の意識改革が必要だと話がでた。地区公民館役員の多くが仕事を持つ中で公民館活動であり、大変苦労されている。一つ事業を増やせば、一つ減る事になる。より良い地域を目指す人づくり、人的資産の育成が、子供の生きる力、主体制自主性を育むような事業、行事に結びついていくのではないか。

公民館活動に参加していない人にも声を掛け、話し合いの場、活動に参加してもらいたい。今ある事業をどのようにしたら人が出てきてくれるのか、各地区館ともに同じ様な課題が残った。

平成18年度  
**公民館**  
**功労者表彰**

2月4日、公民館研究集会において、13人の方の公民館功労者表彰が行われました。表彰者は次の方々です。



堀木 嘉博さん



松尾 優さん



横田 隆司さん



市岡 雄児さん



佐々木 亨さん



大島 吉久さん



永谷 和昭さん



萩野 晃浩さん



唐沢 功さん



唐沢 寛文さん



小木曾秀樹さん



細江 善昭さん



中平 昌宏さん

# 第9回「松川町ふるさと味まつり」 ―身近な食材で工夫する健康料理―

第9回「松川町ふるさと味まつり」が1月14日(日)松川町中央公民館を会場に50名余りの参加者のもと開催された。



講師の松永モモ江さん

―現在の食生活は欧米化の悪影響の結果、メタボリックシンドロームに悩まされるなどの破綻の危機を迎えるのではないかと心配されている。今こそ食育の見直しの時期であり、地域の農産物を原料とした新しい料理で松川の味づくりをすすめていきたい―という趣旨の主催者挨拶のあと場所を調理室に移し料理実演会が行われた。



先生の手元に視線集中

どにも講演に行かれるそうだと。この日は、逆コロッケ・白菜の油揚げ巻き・リンゴの白和え・長イモのおじや・フキノトウご飯など目先が変わった料理の作り方を解説しながら手早く仕上げていかれた。計量スプーンやカップは使用されず、材料に応じてどんな料理にするか決めるのでレシピは無いそうである。

実演の後、わが家の井及びお弁当の部・ふるさと加工品の部・ふるさと料理の部に出品された創意工夫あふれる35店の料理について出品者の工夫・苦労の点について発表を

聞いた。

お待ちかねの試食会は、あれこれと話をしながら箸とお皿が動き笑顔あふれるものとなり、参加者の意欲が多いに盛り上がった有意義な会となったのはまちがいない。

最後に松永さんの印象に残る一言。  
「料理は『愛』です」

## 女性フォーラム ライフステージにあった夢の実現 ―南アルプスの麓に拓く私の人生―

「私達の心に明りを差してくれた」講演会の後、会場内でそんな言葉が出ていた。

松川町女性フォーラムが1月20日に行われた。その中の講演会「ライフステージにあった夢の実現」の演題で現在長谷村の農家民宿みらい塾を営んでいる市羽幸子さんより熱いメッセージが松川町の主婦層の方々に伝えられた。酪農をやっている両親共に生き生きとした夢のある農業をやっていた。こんな農業なら自分もやってみたいと思ひ嫁いでくる時には、牛一頭を連れて来たというエピソードに始まり、「自分でやりたいと思ったらやる」という信念で、様々な



できあがった料理の数々



熱いメッセージを伝える市羽幸子さん

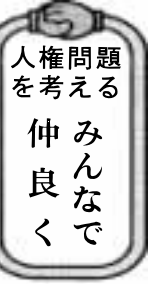
野菜、花を徹底的に作ってきた。子供達は、働かざるもの食うべからずのモットーに積極的に手伝いをしてくれ、中学からはアルバイトとして扱い、責任を持って仕事をやっ



熱心に聞き入る参加者の皆さん

為に自分の通帳を作りそこに農作物の収益が入るように家族に了解を得た。現在の民宿は、築120年以上の住み家を開放している。都会から来たお客様が「こんな所でゆっくりしたい」の一声がきっかけになったようだ。  
講演会を聞いた女性達は、大きな勇気をもたらされた。女性のパワーに乞うご期待。

てもらった。当時、農業の作業着だったのはモンペであったが、「仕事するなら自分もウキウキするような服を着たい」と赤いつなぎで仕事をしたい。がむしろに働きながらも、常に楽しい仲間達と過ごす時間も大切にしていた。市羽さんは、働く意欲を高める



酒井先生の話をきいて

4年 下沢天馬

澤田さんは22才になくなつてしまい、かわいそうだなと思いましたが、塩くらの人はやさしい人だなと思いました。ぼくだったら50年間もできなかったかもしれないかと思つて酒井先生の話をきいてました。話をきいている時かなしいきもちになりました。生田でこんな事があつたなんてそれまではしらなかったから知らない人がまだ生田の所にもいると思うから生田にもこんなかなしいことがあつたんだという事を一人でも多くの人に知ってもらいたいなと思いました。(中略)

一 飛行兵の死、東小児童に感動を与えた、塩倉の婦人の思いやり

感動から育つ「人を思いやる心」

児童と長崎県の遺族との間に交流が始まる

一生おこらないといいなと思つています。

お墓まいりをして

4年 児玉月之助

酒井先生の話を聞いて、生田の昔にこんなかわいそうな話があつたなんてしらないです。しかも、22才で死んでしまつて、こんなにわかいのに、死んでしまつたのは、とてもかわいそうです。

今生きていけば、80才くらいだつたので、長いきできないで、かわいそうです。

お墓まいりをして、沢田さんは、天国でぼくたちがあげたおもちをお正月気分分、食べてもらおうといいです。

おはかまいり

3年 大森祐子

1月16日、今日、2時間目に、2回目のおはかまいりに行きました。わたしは、せんそうなんてなければいいのになと思ひました。せんそうがなければ沢田くまおさんな

がいきできたのかな？と思ひます。これからも、おはかまもりたいたいと思ひます。

お墓まいり

3年 大栗京華

11月の終わりのころ、私たちが松川東小の、3・4年で12月19日にお墓まいりに行きました。さいしよは、ひこうきはへんが落ちてないかなと思つていたけど、4年生に注意されて、きちんとやろうと思ひました。1月11日、2時間目に2007年初のお墓まいりに行きました。4年生が雪かきを持ち3年生がほうきをもつて出かけました。お墓の上

に雪がつもつていたので、3年が雪をはらいました。おそなえに、みかん・おもち・あめ玉をおそなえしました。また3・4年生で少しでも雪かきなどをしたたいと思ひます。

おはかまいり

3年 池野美月

12月29日におはかまいりに

いきました。ひこうきはへんがあるとおもつていったけど四ねんせい「だめだよ」といつてくれて「あつこれはいけない」とおもいました。せんせいがおもちとみかんとあめ玉をあげました。あとそらうじをしました。「くまおさん、よいとしをとつてください」。

お墓まいりをして

4年 酒井 南

お墓にとつても雪がつもつていました。4年生は雪かき、3年生はほうきを持つていきました。まず、雪をはいたり、かいたりしました。きれいななつて、おそなえもの、みかん、おもち、あめなどをおきました。そしてそのまわりに、1人2本ずつ、おせんこうを差しました。雪の上に差しました。その後、みんなはしゃがんで、手をあわせて、おま

いりをしました。たまにいいので、お墓まいりに行つてあげて下さい。きつと沢田さんもよろこびます。

おはかまいり

3年 池野美月

12月29日におはかまいりに



資料館職員より話を聞く

東小の松島先生のクラスでは、戦時中に塩倉で墜落死した戦闘機の操縦員の墓を守り続けた塩倉の婦人たちの「思いやりの心」について学習をしてきました。学習を進める中で、児童が自主的に操縦員のお墓まいりや雪かきを始めたそうです。また児童なりの感想を作文にし、長崎の遺族にも送り、感謝されています。こうしたことが新聞報道されると、感銘を受けた読者から励ましや感謝の電話が学校に多数寄せられたそうです。地域のあたたかな心が児童に感動を与え、その心が継承されていくことは素晴らしいことと思ひます。(資料館)

# カゼにも負けず熱く戦え!!

**松川町  
夜間ソフトボール  
リーグ**

平成18年度松川町夜間ソフトボールリーグの各リーグ上位3位は次のとおり。  
Aリーグ(総合G)

- 1 位 城北A
  - 2 位 堤原バズーカ
  - 3 位 大栢
- Bリーグ(町営G)
- 1 位 清一
  - 2 位 東浦
  - 3 位 宗源原
- Cリーグ(生田G)
- 1 位 名子原クラブ
  - 2 位 大島
  - 3 位 原田A

**松川町  
壮年ソフトボール  
リーグ**

平成18年度松川町壮年ソフトボールリーグは6チームが参戦した。上位3位は次のとおり。

- 1 位 スターキング
- 2 位 上片桐球友
- 3 位 上新井クラブ

**松川町  
OBソフトボール  
リーグ**

平成18年度松川町OBソフトボールリーグは、6チームが参戦した。上位3位は次のとおり。

- 1 位 上片桐OB
- 2 位 上新井
- 3 位 名子OB

**松川町  
シニアソフトボール  
リーグ**

平成18年度松川町シニアソフトボールリーグは、6チームが参戦した。上位3位は次のとおり。

- 1 位 名子
- 2 位 上片桐
- 3 位 天竜

**松川町  
早起き野球リーグ**

平成18年度の早起き野球リーグは8チームが参戦。28試合を戦った。結果は次のとおり。

- 1 位 宗源原
- 2 位 MIC
- 2 位 松川ファイターズ

**松川町マレットゴルフ  
同好会会長杯  
マレットゴルフ大会**

松川町マレットゴルフ同好会主催の会長杯マレットゴルフ大会が1月15日(月)、台城マレット場で行われた。(36ホール、パー144、ストロークプレー) 男性66名、女性34名が寒さに負けぬ熱戦を繰り広げた。結果は次のとおり。

- 男子の部**
- 優 勝 岩崎 光雄
  - 準優勝 今村 皆男
  - 第3位 紫芝 増夫
  - 第4位 佐藤 房男
  - 第5位 川瀬 十蔵
- 女子の部**
- 優 勝 下平千穂香
  - 準優勝 西沢 清子
  - 第3位 山口 愛子
  - 第4位 川瀬 林子
  - 第5位 唐沢みつ枝

**松川町マレットゴルフ  
同好会ダブルス  
マレットゴルフ大会**

松川町マレットゴルフ同好

- 1 位 松尾 忠(2段)
- 2 位 松尾 忠(2段)
- 3 位 松尾 忠(2段)
- 4 位 松尾 忠(2段)
- 5 位 松尾 忠(2段)

会主催のダブルス(ペア)マレットゴルフ大会が1月13日(土)、台城マレットゴルフ場にて行われた。(36ホール、パー144、ストロークプレー) 参加42組。結果は次のとおり。

- 優 勝 山岸宗人 山岸竹男
- 準優勝 松澤由加 田口照男
- 3 位 小笠原昭一 小野哲男
- 4 位 古井純男 古井三四

**新春町民囲碁大会**

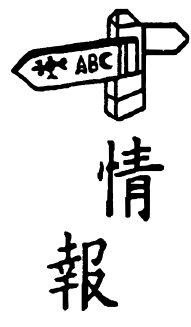
囲碁同好会主催の町民囲碁大会が1月21日(日)に中央公民館で開催された。15名が参加し、結果は次のとおり。

- 優 勝 小平 英雄(4段)
- 2 位 小野田忠雄(3段)
- 3 位 鎌倉 英雄(7段)
- 4 位 松下 正博(5段)
- 5 位 松尾 忠(2段)

**第21回自治会対抗  
バドミントン大会**

平成18年度第21回松川町自治会対抗バドミントン大会が1月21日(日)に町民体育館で開催され、混合団体17チーム(総勢143人)が熱戦を繰り広げた。

- 混合ダブルス団体
- 優 勝 城北B
  - 準優勝 チーム大沢
  - 第3位 中荒町



**ゲートボール初心者  
講習会**

期日 3月10日(土)  
午後1時より  
会場 弓道場隣  
町営ゲートボール場  
(町民体育館前)

申し込み先  
松川町ゲートボール連盟  
電話(36)3900  
申し込み期限  
3月9日(金)



# マラソン頑張れ!!

松川中学校ALIT ローラ・ワトソンさん

去年の8月松川町に來られて松川中学校のALITをされているローラ・ワトソンさん。毎週木曜日の7時30分から町公民館で開かれている英会話教室のあと、編集部の部屋に來ていただき取材させていただきました。



ローラさんはカナダのトロント出身。カナダと聞けば冬のスポーツが思い浮かびますが、やはり有名なアイスホッケーの事を聞かれるそうです。ローラさん自身はスノーボードを8年位続けられており休みの日に木曾の葦原高原スキー場へ行くのを楽しみにされています。

授業での子供達は活発で質問も多くカナダの子供達と大きく違う点とこの

と。英会話教室でも幅広い年代の人達と接してとても楽しく感じられているようです。ローラさん自身は車の運転をされているそうですが、ジョギングも好きで4月に長野で開かれる長野マラソンに出場されるそうで、とてもハッキリしていらつしゃいました。只今シングルのローラさん。

結婚して赤ちゃんを抱くのが夢と身ぶり手ぶりで瞳をキラキラさせて話されました。乱雑な部屋でパイプイスでの取材を心良く引き受けて下さったローラさん。又、部屋を訪ねて下さるのを楽しみにしています。

## すぽっと

### 子育て支援講座

#### 「こども磨きは心磨き」

社会教育指導員

宮下千波

評でした。

想もあり大好

今度も【いとしく会】の方が託児をしてくださり、安心してじっくりとお話が聞け感謝いっぱいです。

です。

町

町の公民館と子育て支援センターとの共催事業「子育て支援講座『家族で学ぼう』では年2回講演会を行っていて、今回は柄教育長を講師に講演をしていただきました。

参加者は20代から70代までの方で「子どもに対しての言葉が何気なくだったけれど、一言一言大切なんだと思いました」

「もつとほめてやりたい」「もつと外であそばせよう」などの感想が寄せられ、言葉の重さや自然体験の大切さを学ぶことができました。また、「こんなふう

に子どものことを考えている方が教育長さんだと知って、とてもうれしく思いました」「年齢の高い子を育てるにも参考になると思います」という感想もあり大好

です。

お孫さんとかかわりや、国語教師としての体験をおりませ「絵から見た子どもの成長」とばがけで育つ心」など、具体的なお話でした。

ふゆ休み

北小1年 かんべ あおい

ふゆ休みです。わたしは、そりやゆきかきやお手つだいをしています。おりよりできったり、いためたりするお手つだいは、むずかしいけれど、ときどきたのしいなおもいます。しゆく、だいのしいなとおもいます。

短歌

千の風になつて

俳句

那須野守由

秋風も狭きも親し木曾の店

収穫の済みし野面の風疾し

解放をされし如くに野は師走

人気なき広域農道まつすぐに

鬼女ゆく夕べの枯野騒立てり

風

風の無き三四郎晴れ続きいて

赤き柿の実白壁に映ゆ

戦火に別れし親友との文通が生甲斐、たつた戦後の私

「千の風になつて」の詩を知りより夫を亡くせし友に伝えぬ

事多き成年の終わらんとして

空の青きに昼の月見ゆ

八たびの亥の歳巡り来て母はやさしき老亥となる

八たびの亥の歳巡り来て母はやさしき老亥となる

八たびの亥の歳巡り来て母はやさしき老亥となる

八たびの亥の歳巡り来て母はやさしき老亥となる



### 町の古民具 ②9 腕用ポンプ

明治から昭和30年代まで使用された  
消防ポンプ



# 声

## ニユースポーツで家族のふれあい

参加者 K・H

1月13日に行われましたス  
ポーツフェスティバルには、  
家族4人で参加させていただ  
き、ありがとうございます。  
役員の皆様が、普段出来ない  
ちよつと変わったスポーツを  
幾つも用意して下さい、色々  
と体験させていただきました。  
小学4年の息子は、キンポー  
ルゲームというのが一番面白  
かったと言っていました。こ

れは、大人一人では抱えきれ  
ない程の大きなボールを使っ  
たゲームで、チーム4人が息  
を合わせてボールを受けとめ  
るのです。さっきまで見ず知  
らずだったおじさん、おばさ  
ん方と一緒に、ボールを追い  
かけては広い体育館をあつち  
へドタドタ、こっちへバタバ  
タ。いい汗をかいて、笑いあっ  
て。これが、スポーツの醍醐

味ですね。お蔭様で、楽しい  
ひと時を過ごさせていただき、  
日頃の運動不足も少し解消で  
きたような気がします。これ  
からは暖かくなつてくる事  
です、時にはポ  
ール一つ抱えて、  
子供と一緒に外  
に飛び出して  
みようかしら。



## ニユースポーツ『フロツカー』に参加して

北林 濱代



巨大ボールを落とすな！「キンボール」

部奈地区館の冬季スポーツ  
大会は例年男女ともバレーポ  
ールでしたが、誰もが楽しめるス  
ポーツを…との要望が入れら  
れ、本年度より『フロツカー』な  
るスポーツを取り入れて下さ  
いました。

コートはバトミントンコー  
トの半分の広さがあり、ペタン  
クの手軽さ+カーリングの楽  
しさのキヤッチフレーズにて、  
3つのローラー付きストーン  
を四輪付ターゲットへいかに  
近づけるかを競うスポーツ  
という事でまずは一投――。

「エッ――」「ム、ム、ム」と  
ストーンは右へ逸れ、左へ  
カーブして思うに任せず一  
層力んでしまう。力が入っ  
てターゲットをコート外へ



フロアカーリング、略して…

弾き出してしまつてアウトだつ  
たり…。

でも誰もの一投一投が笑顔  
笑顔。勝つても敗けても笑顔  
笑顔。

そしてストーンの触れる音  
があのカリリング音そのもの  
の「カーン」と会場に響きわた  
る心地好い音。「チーム青森」な  
らぬ「チーム部奈」の選手が音  
と笑いの『協音』(?)に包まれ  
た楽しいスポーツ大会を体験  
することができました。

# 草

この冬は暖冬でスキー場  
は雪不足、湖では氷が張らず  
冬の観光地は悲鳴をあげて  
いるとのニユースが流れてい  
ました。

これもやはり、地球温暖化の  
影響でしょうか。このままで  
は100年後には気温が6度も上  
昇するとの発表がありました。  
人ごとではなく、私たちの住  
む松川町の特産、りんごや梨  
にも影響がでるかもしれない  
のです。

特に二酸化炭素削減などの  
環境問題は、目に見えないと  
いうことから理解しにくい現  
状かもしれない。しかし将  
来的には今以上にもっと深刻  
な問題となつてくることは確  
かです。一人一人が、環境問題  
をもっと考えなければいけな  
いと思います。子供たちの将  
来のためにも、皆で取り組む  
べき大きな問題だと思います。  
今年は桜の開花も早いとの  
予報ですが、やはり入学式の  
時期に咲いてほしいですね。

宮下 雅史

公民館報  
「まつかわ」  
第 520 号  
平成19年2月15日

発行所 松川町公民館  
責任者 松村 直彦  
編集人 公民館編集部  
Tel 36-2622  
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp  
飯田市上郷黒田121  
印刷所 龍共印刷(株)